

日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1

TEL 03-3291-5035

二千年を 画期的宣教年に

伝道団体連絡協議会会長

羽鳥 明

「キリスト誕生二千には、キリスト教さんでは、キリスト教を挙げて、何かなさるんでしょうな。何をなさるんですか」と、ある知り合いの有名な僧侶（精進）に聞かれ、何と答えてよいのかわからず恥ずかしいやら、情けない思いをしました……とY県のM牧師が訴えてこられました。

世界的規模では、「AD二千運動」がすでに展開され、最近韓国では、四千人の参加をみた世界宣教会議で、氣勢を挙げました。でも、日本ではと聞かれると、M牧師と同じような当惑を感じます。

「オペレーション・ワールド」という本によりますと、韓国では全国で一致して二千年までに人口の五十%の福音化。プロテスタント二千万達成。二千年までに一万人の韓国人宣教師を全世界に送り出し、少なくとも世界のすべての国にひとり韓国人宣教師を派遣する」という目標を掲げて前進中とのことです。

PBAと密接な協力をしているTWRのレポートによると、全世界の短波による福音放送団体は一致して、十年前からワ

ールド・バイ・二千」運動を展開、世界の三百七十二言語のうち、未だに福音を放送していない九十一言語から福音放送を送り出そうと結末、TWRが分担しているのは二十七語とのことです。

去る七月十七日、お茶の水クリスチャンセンター八Fチャペルにはほぼ満堂の出席者を迎えて、総動員伝道二十五周年記念大会が開かれました。席上運営委員長の小助川次雄師は、「二千年を画期的宣教年にしよう」とチャレンジに満ちた提案をなさいました。その中で、この同じ提案は去るJEA総会でもなされ、大方のうなずきを得ていると報告されました。

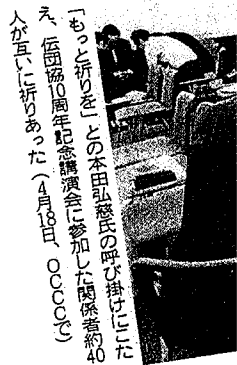
来賓として祝辞を述べられたJEA理事長の舟喜信師も、「JEAは協力のために存在する」と発言されました。

伝団協も「日本をキリストへ」との旗印のもと、まさに全日本に福音を満たすために、各加盟団体の特色を个性的に活かしつつ、この大目標の達成のため、「協力」するために結成されました。

JEAレベルを中心とし、教会に伝える伝団協も、二千年を画期的宣教年とするために、目標の設定、プログラムの選択、年次計画の企画等、具体的にかつ祈り深く協議決定を急ぐべきでしょう。

「神を待ち望む者のために、このようにしてくださる神は、あなた以外にとこしえから聞いたこともなく、耳にしたこともなく、目で見たこともありません」（イザヤ六四・四）

「そのとき、わたしは、国々の民のくちびるを変えてきよくする。彼らはみな主の御名によって祈り、一つになって（一つの肩になって）主に仕える」（ゼバニア三・九）



長の本田弘慈氏が伝協協の立場から講演した。岡村氏は「協議会がこれまでのおおむねの功績をたたえ、日本のキリスト教の歴史を振り返る」と述べた。

第11回伝道団体連絡協議会研修会

新しい時代の伝道団体 めざし、開催迫る！

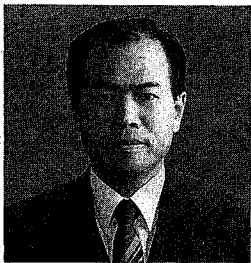
伝道団体に奉仕するお互いが、相互に働きを知り、重荷を分かち合い、さらに地方で伝道牧会に携わっておられる講師から、伝道団体への要望や期待、さらに霊的なメッセージを取り次いでいただきます。各団体の指導者だけでなく、スタッフの方々の参加を願っています。まだ間に合います是非ご参加ください。

期日・9月18日(月)～20日(水)

18日午後4時30分受付開始

20日昼食後終了

会場・恵みシャレー軽井沢



午後の講演・千田次郎師
(保守バプテスト 恵泉
教会牧師) ■写真
テーマ・「地域教会が期待するこれからの伝道団体」

午前の発題・「壁」を

突き破る文書伝道

クリスチャン文書伝道団(鹿島重男氏) / いのちのことは社(多胡元喜氏) / 新生宣教団(リーダール師)

社会に対する責任と伝道

小さないのちを守る会(辻岡健象師) / ディアコニア・センター(広瀬勝久氏) / 福音主義医療関係者協議会(稲葉裕氏)

費用・二泊六食一七、〇〇〇円 / 一泊四食一、〇〇〇円 / 一泊三食一〇、〇〇〇円

水申し込みは、〒101 東京都千代田区神田駿河台二一ー OCCCビル6F 総動員伝道内伝道団体連絡協議会まで。

「十周年記念誌」制作進行中！

内容は、挨拶、証し、論文、加盟団体紹介などです。特に加盟団体すべての紹介を載せたいと願っております。まだ申し込まれていない団体は、先日お送りしました案内をご覧ください、お申し込みください。

4月18日(火) 第11回総会開催

伝協協は、第十一回総会をOCCCで開きました。内容は以下の通り。

第一部・礼拝。原登師が「神の国の働き人」と題して「伝協協の中に属している我々は、各々の立場において精一杯のご用をする者でありたい。主の働き人として時がある。伝道のできる時に精一杯悔いが残らないように励もう」とメッセージした。

第二部・総会。

議事①一九九四年度活動報告、会計報告、監査報告を承認した。

②役員改選 以下の通り承認した。

岩崎兄辞任、後任はソングライズより常田姉、岩本兄辞任、後任はいのちのことは社より岡田兄、多胡兄副会長に、マクビディ師顧問に、浅見兄役員に

③一九九五年度計画案、予算案を承認

○研修会・9月18日～20日(恵みシャレー軽井沢)

○フェスティバル・11月20日～22日(東海宣教会議と合流)

④事務用品(キャビネット)購入について補正予算を組むことで承認した。

⑤十周年記念誌発行については特別予算をたてることを承認した。

地域教会と超教派伝道団体

⑥

キリスト者学生会総主事 片岡 伸光

一九九一年六月に那須塩原にて開かれた第三回日本伝道会議の第五分科会は「教会論」であり、副題が、「今日における教会理解と各種団体」ということでした。もともとこの原案では、副題は（職制と信徒伝道者、家の教会等）となっていたのですが、当時のキリスト教界の現状と必要から焦点が絞り込まれたものと思います。また発題も討議も、地域教会と超教派伝道団体との緊張関係という当時注目されていたことに集中しました。

いま振り返って思うのは、日本全体の伝道会議のような場では、現象にとらわれすぎずに、教会の本来の姿を論じ学び合うほうがよかったのではないかとということです。よく理解しているようでも、教会については、また各種伝道団体についての聖書的存在基盤やその委ねられた権威、秩序の問題等、深められなければならないことがまだまだ多数あるように思います。本質の理解という土台がなければ、本当の問題の解決はないからです。今日の私たちも、教会とパラチャーチの緊張関係のみに目を奪われていると、大切なことを見落とすことになる危険性があります。

その分科会の中で、一人の牧師は、「自分は教会の中で、教会学校、中学生伝道、高校生伝道、婦人会、壮年会等、ありとあらゆる働きに携わり

手が足らない状態である。まさにネコの手も借りたい程である。については、超教派伝道団体の人は教会に何をしてくれるのか」と言われました。ひとりの発題者として立たされていた私は、その質問を聞きながら、田舎の町で五人、十人の会衆とともに日々開拓伝道に苦闘しているK G Kの卒業生の先生方のことを胸の裏に思い浮かべ、答えに詰まってしまいました。驚くほどに時間を用する日本の伝道の働きの中で、自分たちの働きが一体どれくらいそのような教会の働きに協力できるだろうかという無力な思いに圧倒されたのです。

それとともに、その場で感じられたことは、地域教会に役立つのであればそれはよい働きで、教会はそれを利用する。しかし地域教会に直接役に立たない働きは無意味であり、存在価値がないというような無言の圧迫でした。

私は、一地域教会がすべての超教派伝道団体に関われるとは思いませんし、当然のことながら協力するかどうかはその地域教会の自主的で自由な判断に委ねられると思います。しかし、ここで考えたのは、「利用する」という言葉で表されるような両者の関係です。地域教会の側のこの「利用する」という言葉や態度にどれほど多くの超教派伝道団体の働き人が傷ついていることかと思うのです。

大切なことは、その超教派の働きが、主からであるのかどうかということです。それは教会に委ねられた宣教のわざに専門的に携わりつつ地域教会に仕えるものでありながら、ある時点である特定の地域教会と具体的な協力関係があるかどうかで存在価値が決まるものではありません。たとえ具体的な協力関係がなくとも、地域教会から主の働きとして見られているまなざしを感じるとき、超教派伝道団体はますます主にある働きをする励ましを受けます。

同様に、私たちも地域教会を、たとい自らの団体と直接の関係がないものであっても、主が建てられたものとして敬う姿勢が必要です。以前にも書きましたように、両者は動き方やテンポが異なりますが、互いに助け合うように主が建てられたのです。

その意味で、私たち伝道団体の者も、常に主との関係で存在の意味を問い続ける必要があると信じます。

私は、両者は主が宣教の働きのために建てられたものとして、「利用する」という関係を越えて互いの存在を認め合う日がくるのを夢見ています。その意味でも、教会、超教派伝道団体の存在基盤について、秩序について聖書に聞き、教会の歴史に聞き続けていくことが大切であると思います。

発行日 一九九五年八月二十五日

発行者 羽鳥 明

編集者 鈴木 繁